



昭和34年4月18日制定

あさひ

学校便り 9月号

平成26年8月29日

横浜市立旭小学校

作る心・育てる気持ち

校長 伊藤 博夫

猛暑にも負けず、課題にもめげず、お休み癖にも負けず、児童が遅しくなって学校へ戻ってきてくれました。本校としましては、児童一人ひとりが長期休業中に体験をしたと思われる事項を把握し、これからの学校生活に生かしていきたいと思っています。

さて、この夏休み、児童は色々な方との出会いがあったことと思います。また、いろいろな体験をしたことと思います。人との出会いについては「挨拶」が大事であるというお話を以前にもさせていただきましたが、自分の身の回りにある物についても感謝の気持ちを持ってほしいと考えています。

先日、ある雑誌のコラムの欄に、人形作家の辻村ジュサブローという人のお話が掲載されました。辻村さんは、かつて NHK のテレビで長い間放映をしていた「里見八犬伝」というテレビ番組に出てくる人物の人形を作成していた方です。地域の皆様や保護者の皆様の中にはご覧になっていた方もおありのことと思います。

辻村さんは人形を作るときに布を細かく切って作成をします。はさみを入れる前に布に向かって「ちょっとごめんなさいね。」と言葉がけをして、心の中で祈りながらはさみを動かすのだそうです。

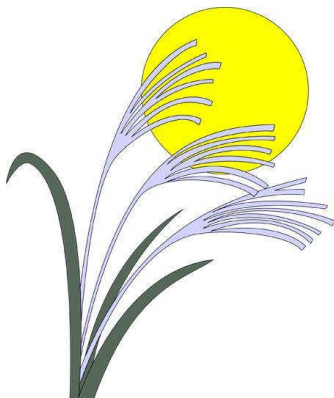
人形の形を作る仕事をするとき、背筋を伸ばし正座をして仕事をするとき、お行儀の良い人形ができるそうです。何となく集中していないだらしない気持ちで作ると、だらしなさが出来上がった人形に出てしまうそうです。私たちが人形を観るとき、どれも同じように見えているはずですが、実際に人形を買うときには顔立ちなどをじっくりと選んで求めますから、辻村さんの言われることもよく分かるような気がします。

これと同じようなことは、お花を作っている人のお話にもうかがえます。肥料や水をあげるとき「綺麗に咲いてくださいね。」とか「綺麗に咲いてくれてありがとう。」と、人間に話すように言葉がけをしたり、また、美しい音楽を流したりするそうです。そして、花を切り取った後、「お礼肥え」といって「ありがとう」の気持ちを込めて肥料をあげるのだそうです。物を作るときも、人を育てる気持ちで、感謝しながらかわいがってあげることが大切だと言うことを学びました。

そんな気持ちでふと窓の外を眺めると、花壇には夏の暑さに負けず、綺麗な花々が咲き乱れています。児童が夏休み中もせっせと水やりや雑草取りをしてくれたお陰です。本校には、もうすでに「作る心や育てる気持ち」が芽吹いていることを知り、うれしくなりました。

地域の皆様、保護者の皆様、児童が元気に学校に戻ってきてくれました。長期休業中は児童が大変お世話になりありがとうございました。今後とも安全・安心な生活が送れますようお願い添えをどうぞよろしくお願い申し上げます。

9月の取組目標



生活目標

規則正しい生活をしよう

保健目標

規則正しい生活をしよう

清掃目標

校舎のまわりをきれいにしよう

給食目標

協力して楽しい食事の場をつくろう